

～ 会派の活動を報告します ～

真政会

新型コロナウイルス感染症の拡大が続いている。コロナ禍によって失業や解雇が拡大し生活困窮者が増え、貧困や自殺者の増加が大きな社会問題となっている。

今取り組むべき最優先課題はコロナ対策である。人類史上経験のない緊急事態をいかに乗り切るか、市民の安心・安全の確保、事業者への経済活動に対する支援、さらには児童・生徒が安心して学習できる環境づくりが、今市に求められている最優先課題である。

こうした背景を踏まえ、先般

市長に対し新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぎ、医療体制のより一層の充実を図るよう求めた上で、来年度の予算要望を行った。令和3年度では新型コロナウイルスの収束を誰もが望んでいるところである。その上で市民の命を守る施策、特に大水害に備えた利根川、渡良瀬川、思川の堤防強化促進と自分の命は自ら守る意識の高揚として、マイ・タイムラインの周知徹底を図るよう求めた。また、新たな手法である住友商事との協定締結によるまちづくりは、市民に夢と希望を与え、他に誇れる県西地区の中心都市を目指すよう強く要望した。



少子高齢化が進む中、社会をどう維持、発展させていくのか、雇用問題、子育て教育問題、工業用地造成、さらには先導的プロジェクトの推進についての要望と予算の要求をした。

今後も、苦難を乗り越え、安心して健康な、そして活力ある社会の構築を目指していく。

黒川 輝男 赤坂 育男
青木 和夫 稲葉 貴大
園部 増治

市民ベースの会

市民ベースの会では古河市の地域産業振興拠点、道の駅「まくらがの里こが」を視察しました。

これまで196台しか駐車できなかったものを158台分拡張したことから、12月最後の日曜日にもかかわらず、スムーズに車を駐車できるようになりました。



拡張事業は成功だと感心する一方で、大型車輛も含めた駐車

の動線的にさらなる改善の余地ありとの意見が出されました。

また、意識やマナーの問題でもあるとは思われますが、障がい者用駐車場を使用する健常者が見受けられました。これに関しては、ダブルスペース駐車場の施工や罰則も含めた古河市独自の条例を制定すべきではないかという意見もありました。

自動車用の駐車場を拡張する一方で、二輪車用駐車場への配慮はなかったことから、多くの二輪車は行き場を失い、歩道に停めている状態でした。本来、歩道を通行人や車いすを利用する人たちのためにも早急な対応が必要であると感じました。

さらに、令和2年9月18日か

ら故障しているEV急速充電器は、まだ修理が完了していませんでした。国道沿いの道の駅であることや地球温暖化防止の観点から電気自動車普及している一方で、最も重点的に取り組むべき基本中の基本ができていませんでした。次回の議会ですその点をただしていきたいと思えます。



落合 康之 増田 悟
倉持 健一 阿久津佳子
長浜 音一 生沼 繁